



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 中央アジア関連研究文献リスト2022                                                                |
| Citation         | 日本中央アジア学会報, 19, 89-93                                                             |
| Issue Date       | 2023-07-31                                                                        |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/94162">https://hdl.handle.net/2115/94162</a> |
| Type             | other                                                                             |
| File Information | JB19_019list.pdf                                                                  |



## 研究文献リスト

## 中央アジア関連研究文献リスト2022

本リストは、2022年(1月～12月)に刊行された、原則としてイスラーム化以降の中国新疆、旧ソ連領のムスリム地域、およびその周辺地域に関する学術文献(学術的映像作品、データベースを含む)をリストアップしたものである(理科系のものを除く)。原則的に、国内で刊行された、国内で活動する研究者による著作を中心とし、エッセイや辞典項目等は除外した。ただし、本学会会員の著作については、海外刊行のものも一部含まれる。なお、各文献の副題はコロンつなぎで統一した。

## 書籍

- 李真恵『二つのアジアを生きる：現代カザフスタンにおける民族問題と高麗人(コリョ・サラム)ディアスポラの文化変容』ナカニシヤ出版(5,000円+税)
- 磯貝真澄、磯貝健一編『帝国ロシアとムスリムの法』昭和堂(5,600円+税)
- 稲葉稜『イスラームの東・中華の西：7～8世紀の中央アジアを巡って』(京大人文研東方学叢書13)臨川書店(3,200円+税)
- 小野亮介、海野典子編『近代日本と中東・イスラーム圏：ヒト・モノ・情報の交錯から見る』(Studia Culturae Islamicae no. 116 / MEIS-NIHU Series no. 6)NIHU「現代中東地域研究」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所拠点(非売品)
  - 野田仁「プロパガンダ誌『イスラミック・フラタニティ』とその後継誌をめぐる日本側の事情：ハサン波多野の役割に焦点を当てて」
  - 小野亮介、宇山智彦「カザフ自治政府アラシュ・オルダとシベリア出兵期日本の邂逅と齟齬：マルセコフ要請書と関連史料から見る背景」
  - 海野典子「日本人が見た中華民国期北京のムスリム社会：雑誌『回教』と画集『回回風俗図』を手がかりとして」

などを所収



- 帯谷知可『ヴェールのなかのモダニティ：ポスト社会主義国ウズベキスタンの経験』東京大学出版会 (6,200円＋税)
- 木下恵二『近代中国の新疆統治：多民族統合の再編と帝国の遺産』慶應義塾大学出版会 (4,500円＋税)
- 熊倉潤『新疆ウイグル自治区：中国共産党支配の70年』（中公新書）中央公論新社 (860円＋税)
- GOTO Emi and Chika OBIYA (eds.), *Created and Contested: Norms, Traditions, and Values in Contemporary Asian Fashion* (Studia Culturae Islamicae no. 115/ MEIS-NIHU Series no. 5), Fuchu, Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies (非売品) <http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/123685>
  - OBIYA Chika, “Between the ‘Good Scarf’ and the ‘Bad Scarf’: National Tradition and the Veil Debate in Post-Soviet Uzbekistan”

などを所収

- 櫻間瑞希、菱山湧人『ニューエクスプレスプラス タタール語』白水社 (3,600円＋税)
- シンジルト編『目でみる牧畜世界：21世紀の地球で共生を探る』風響社 (2,600円＋税)
  - 秋山徹「ユーラシアの心臓部、天山の山嶺から：牧畜民の来し方、いま、そして行く末は」
  - 井上岳彦「ウマを愛でる歴史：ソ連・ロシアの経験は牧畜をどう変えたのか」
  - 地田徹朗「カザフスタン・小アラル海地域での牧畜：牧畜が災害復興に果たした役割とは何か」
  - 上村明「モンゴルの乳しぼり：牧畜民と家畜の心は通うか」
  - シンジルト「オイラト、動植物、無生物：牧畜民的な「共生」とは」

などを所収

## 論文

- 諫早庸一「キエフとモスクワのあいだ：前近代アフロ・ユーラシア史からの視界」『現代思想』50 (6), 262–270 頁
- 諫早庸一「「大遷移」のユーラシア的文脈：朴興植氏の議論に寄せて」日韓歴史家会議組織委員会編『伝染病と歴史：第21回日韓・韓日歴史家会議報告書』日韓文化交流基金, 71–78 頁
- 諫早庸一「ユーラシアから考える〈14世紀の危機〉」『史苑』82 (2), 185–211 頁, <http://doi.org/10.14992/00021496>
- ISAHAYA Yoichi, “Geometrizing Chinese Astronomy? The View from a Diagram in the *Kashf al-Ḥaqqāʾiq* by al-Nīsābūrī (d. ca. 1330),” B. Mak & E. Huntington (eds.), *Overlapping*

- Cosmologies in Asia: Transcultural and Interdisciplinary Approaches*, Leiden: Brill, pp. 139–169. [https://doi.org/10.1163/9789004511675\\_008](https://doi.org/10.1163/9789004511675_008)
- ISAHAYA Yoichi, “Islamicate Astral Sciences in Eastern Eurasia during the Mongol-Yuan Dynasty (1271-1368),” S. Brentjes (ed.), *Routledge Handbook on Sciences in the Islamicate World: Practices from the 8th to the 19th Century*, London: Routledge, pp. 688–695. <https://doi.org/10.4324/9781315170718-61>
  - 岩倉洸「現代アゼルバイジャンにおける国家介入的政教関係の展開：宗教関連法規則における政教分離と宗教の公共的な役割の規定を中心に」『立命館アジア・日本研究学術年報』3, 31–52 頁
  - 宇山智彦「カザフスタン動乱にみる国民の不満と権力闘争：ナザルバエフ体制解体の試練」『外交』71, 73–77 頁
  - 宇山智彦「ウクライナ侵攻は中央アジアとロシアの関係をどう変えるか：戸惑い・危機と変化への胎動」『UP plus ウクライナ戦争と世界のゆくえ』東京大学出版会, 97–106 頁
  - 宇山智彦「ウクライナと中央ユーラシア：歴史的関係とロシアによる侵略戦争の衝撃」『内陸アジア史研究』37, 1–15 頁
  - 宇山智彦「感情とイメージの地政学：ロシア・ウクライナ紛争とアフガニスタン情勢に寄せて」公益財団法人日本国際フォーラム編『ユーラシア・ダイナミズムと日本』中央公論新社, 111–127 頁
  - 宇山智彦「ロシアと中央アジア」林佳世子、吉澤誠一郎責任編集『岩波講座世界歴史 17 近代アジアの動態 19 世紀』岩波書店, 197–216 頁
  - UYAMA Tomohiko, “Unmasking Imperial History: Emotional Empire, Violent Politics of Difference, and Independence Movements in the Name of Autonomy,” *Ab Imperio* 2022(1), pp. 121–126. <https://doi.org/10.1353/imp.2022.0012>
  - 小沼孝博「1795 年におけるコーカンド使節と清の交渉：清代カシュガリアの政治・外交空間」『東北学院大学論集 歴史と文化』65/66 合併号, 31–49 頁
  - 小沼孝博「ムザルト峠を越えて：天山南北交通史序説」『東方学』143, 1–17 頁
  - 小沼孝博（那日蘇訳）「清代乾隆朝扎哈沁之動態」『Oyirad Studies / 衛拉特研究』8, 8–26 頁
  - 片山章雄「西域を読み解く（第 5 回）第 1 回探検隊の新疆調査とその前後」『K』4, 54–59 頁
  - 熊倉潤「中亞的恐中症與反中浪潮」吳介民、黎安友編『銳實力製造機：中國在台灣、香港、印太地區的影響力操作與中心邊陲拉鋸戰』左岸文化, 381–404 頁
  - 小松久男「サルト人とはだれか：近代中央アジアの民族名論争」『西南アジア研究』94, 59–92 頁
  - 小松久男「中央アジアの 19 世紀：近代の開幕」『アジアのかたちの完成』（アジア人物史 8）

集英社, 569–635 頁

- KOMATSU Hisao, “M. Bekir, *Türkistan Kıt’ası Tarihi ve Coğrafi Cihetten* (Taşkent, 1918) hakkında bir inceleme,” *Uluslararası Geçmişten Geleceğe İpek Yolu Sempozyumu 10-12 Ekim 2022 Bildiri Kitabı*, Ankara: Ankara Hacı Bayram Veli Üniversitesi, s. 401–412
- 坂井弘紀「中央ユーラシアの女神・女戦士」『口承文芸研究』（日本口承文芸学会）45, 39–50 頁
- SAKAI Hiroki, “Turkic Heroic Epic Tale Er Toshtuk and Japanese Mythology”, «*Si est tens a fester*»: *Hommage à Philippe Walter* (Kôji Watanabe, dir.), Tokyo: CEMT Editions, pp. 140–144
- 櫻間瑞希「タタールスタン共和国によるディアスポラ政策と各地のタタール・コミュニティ」明石純一編『移住労働とディアスポラ政策：国境を越える人の移動をめぐる送出国のパーспекティブ』筑波大学出版会, 260–283 頁
- 澤田次郎「1930年代の新疆をめぐる日本の情報活動」『拓殖大学論集 政治・経済・法律研究』25(1), 1–47 頁
- 塩谷哲史「近世ホラズムにおける王権と水利」『K』3, 40–45 頁
- SHIOYA Akifumi, “Islam and the Nomadic Political Tradition in the 19th-Century Khanate of Khiva,” *Oriente Moderno* 102(1), pp. 68–87. <https://doi.org/10.1163/22138617-12340280>
- 薛雨陽「「烏奎高速」建設の対中国新疆北部経済圏区への影響」『文化共生学研究』（岡山大学大学院社会文化科学研究科）22, 85–106 頁
- 白須浄眞「清国の檔案資料が語る第2次大谷隊（1908～1910）の当初の計画（上）：在清国公使・林權助の公信、清国・外務部発給の護照、清国・新疆省の檔案との相関」『竜谷史壇』155, 1–24 頁
- 新免康「19世紀後半の南新疆に関する一資料：N. パントゥソフによって記録された民間歌謡の紹介」『アジア史研究』（中央大学）46, (1)–(30) 頁
- 新免康「19世紀後半～20世紀前半におけるウイグル族社会の呪術師バフシに関する資料」松本悠子、三浦麻子編『歴史の中の個と共同体』（中央大学人文科学研究所叢書 77）, 151–171 頁
- 田中周「新疆・ウイグル族をめぐる諸問題」『ROLES REVIEW』1, 195–217 頁
- TANAKA Amane and Maria TANAKA, “China’s Security Engagement with Greater Central Asia (GCA): The Case of Afghanistan,” *ROLES Review* 2, pp. 21–38
- 大門毅「新疆ウイグルと中央アジア：パンデミック後の中国と世界を読み解く」『ワセダアジアレビュー』24, 45–50 頁
- 長峰博之「サライはどこに？：ジョチ・ウルの「首都」サライをめぐる近年の研究動

向によせて」『西南アジア研究』95, 76–100 頁

- 福田浩子・岡地智子「染織品の展示と方法について(2):『令和3年度 秋の所蔵作品展 中央アジアの衣装と刺繍』の場合を中心に」『広島県立美術館研究紀要』25, 1–17 頁
- 福田浩子「中央アジアの刺繍布スザニについて(2): 令和3年度スザニ刺繍ワークショップ報告」『広島県立美術館研究紀要』25, 19–25 頁
- 前野高章・安田知絵「新疆ウイグル自治区と中央アジア諸国の貿易構造分析」『国際情報研究』19(1), 3–14 頁

## データベース

- ISOGAI Masumi, Marsil N. FARKHSHATOV, Tat'iana K. SURINA et al. (eds.) “An Islamic Sacred Site and Epitaphs in the Southern Urals,” *The Digital Archive of Northeast Asian Studies*. <https://archives.cneas.tohoku.ac.jp/index.php/en/collection/musepitaph> (日本語版: 磯貝真澄、マルスイル・N・ファルフシャートフ、タチヤナ・K・スリナほか編「南ウラルのイスラーム聖地と墓碑銘」『地域研究デジタルアーカイブ』, <https://archives.cneas.tohoku.ac.jp/index.php/collection/musepitaph>)